

## 稲葉健二のコラム



昨年の6月議会で議長に就任致しました。市川市議会の代表として仕事をさせて頂いております。6月、9月、12月議会を終えることができました。二元代表制の一翼を担わせて頂いていることに責任を感じています。最近や今後の市の動きや予定などをお知らせ致します。

昨年の11月10日に都市計画道路3・4・18号浦安、鎌ヶ谷線の開通式が行われました。工期21年総工費280億円をかけたこの道路のスタートに立ち会えたことは感無量でした。当日は北方小学校の吹奏楽部の記念演奏や多くの市民の方とバルーンリリース、渡り初めなどが行われました。この道路の開通により、災害時の避難、救援の動線の確保や道路下の下水道市川幹線の整備が大きく前に進むことになります。加えて周辺道路の渋滞緩和に役立ちます。(写真は開通式のもので)

今年の3月11日に旧市民会館の建替えが終わり、竣工致します。新しい名称は「八幡市民会館」としてお目見え致します。以前のような大きなホールではなく、最大で326席の多目的ホールの他に、練習室、会議室、展示室などがあります。貸出も1時間単位です。

皆様にご利用頂いていた、八幡市民談話室は3月一杯を以て一般の貸出を終了致します。その後は市で利用を予定しており、市庁舎の建替えが全面的に終了後、使い方や建物のあり方を議論する予定です。

新第二庁舎(南八幡2丁目、市川商工会議所の隣)が3月に完成して、5月には現在の本庁舎から引越しが行われ、その後現在の庁舎を解体して、新本庁舎の建設に取りかかり平成32年4月に完成を目指します。その時に仮庁舎などに分散していた市の機能は本庁舎と第二庁舎を中心に機能することになります。



テープカット



バルーンリリース



渡り初め

ご意見・ご要望等お気軽にどうぞ!



市川市議会議員

# 稲葉健二の ひと言メッセージ

No.50

平成29年1月10日発行  
稲葉健二事務所  
272-0021  
市川市八幡2-2-10  
TEL 047-333-1783  
FAX 047-334-1990  
URL [www.inaba-kenji.jp](http://www.inaba-kenji.jp)  
MAIL [kenjiinaba@aol.com](mailto:kenjiinaba@aol.com)

## 市川市の人回から。

新しい年を迎え、今まで以上に、生まれ育った市川市をより住みよい街にするために活動していくことを改めて心に刻みました。

市川市の人口は昨年48万人を超えました。千葉県では4番目。人口密度は千葉県で2番目です。年齢別で考えてみると、15歳未満は59,326人(12.3%)、15~64歳は322,562人(67.1%)、65歳以上は99,008人(20.6%)平均年齢は42.92歳です。(11月30日現在の人口です)少子高齢化という人口ですが、施策を充実して、子育てしやすい街に向けて進めていくことが人口増につながり、生産人口も増え税収も上がっていきます。二世帯同居などに向けて改修費用を補助する施策も補正予算を組む程の人気がありました。待機児童対策も緊急プランで進めています。参考までに、100歳以上の方は131人、白寿の方は78人、卒寿の方は944人、米寿の方は1277人、傘寿の方は3243人、喜寿の方は3464人、古希の方は4418人、還暦の方は4856人です。この数字は単純に年齢で当てはめたものです。48万人の中で自分と同じ年の人がこんなにいるのだと楽しんでもらえたらと思います。

次に、地域別の人口を考えてみましょう。市役所を中心に見て、八幡は6811世帯13393人、菅野は4782世帯10539人、東菅野は4597世帯10381人、南八幡は9144世帯16738人です。この4地域の人口は、51051人で市の10.63%の人が住んでいます。ここで言いたいのは、この面積に5万人以上の方が住んでいます。災害時に予測される火災や避難所の問題です。裏面に書いたように日頃から自治会などの地域の方と連携して共助を構築するようにすることや在宅避難にむけた地域の協力をすることが大切です。ご協力をお願いします。



# 地域を考えて災害時の対応を日頃から考えてみてはいかがですか？

いざという時に考えて行動して下さい。

八幡・菅野地区は市川市の中でも人口の密度が高い地域です。地震や災害がおきた時に行動するには、よく考えてからでないと二次的な被害や課題がおこってしまいます。以下のチャートを参考にして自分の状況や地域を考えて行動をお願いしたいと思います。



## 地震や災害がおこったら

火災や身体の安全を確かめてから、自分や家族や家の被害を確認します。

問題なければ、在宅で避難をお願いします。



### 被害がなかった場合



地域の状況を確認して協議会や市に報告できる内容をまとめる。



二次的な被害が大丈夫であれば自宅で避難します。

余裕があれば近所の状態を確かめましょう。

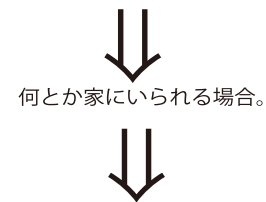
近所が大丈夫であれば自治会などで安否の確認などに協力しましょう。

### 被害があった場合



家にいられない状況の場合。

なるべく近所の方にこれからどこに避難するかを告げて避難場所へ行きましょう。どこの避難場所に行っても問題ありませんが自分の行先を地域に残っている方に知らせていくことが大切です。



救援物資の取りまとめを行い防災拠点協議会と連携して情報の連携、物資の確保を行う。



地域の中で共助できる拠点を開設する。災害時の組織を日頃から確認していたものを立ち上げる。

被害を受けた家庭を把握する。在宅避難している方を把握する。

避難場所に行かれた方を把握する。

在宅避難をしている方を把握し必要とされる救援物資の数をまとめる。

避難場所の受け入れ人数には限りがあります。誰でも行けば受け入れられるものではありません。地域で情報を共有し、救援物資などを自治会など協働で受け入れ・配給し個人の行動をしないことが地域を守ることに繋がります。避難場所に行かなくても地域で受け入れ体制をつくれれば安心です。